

# 電波政策2020懇談会 制度WG ヒアリング資料

## － 電波利用料の用途について －

2016年 2月25日

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会  
(CIAJ)

- 1. CIAJの概要**
- 2. 電波利用料の使途の基本的考え方**
- 3. 電波利用料の使途について**
- 4. その他の主な意見**

# 1. CIAJの概要

## 2015年度 CIAJの概要

情報通信技術(ICT)活用の一層の促進により、情報通信ネットワークに係る産業の健全な発展をはかるとともに、情報利用の拡大・高度化に寄与することによって、社会的、経済的、文化的に豊かな国民生活の実現および国際社会の実現に貢献することを活動の目的としています。

通信ネットワーク・端末機器等の供給事業者が正会員として、通信事業者やサービス・プロバイダー、ユーザー企業等がフォーラム会員として加盟し、ICT産業の活性化につながる政策提言・意見発信、ICT利活用の推進による新たなビジネス創出の推進、グローバルビジネスの推進、業界共通諸課題の解決に取り組んでいます。



正会員 : 110社  
フォーラム会員 : 42社  
賛助会員 : 50社

(2015年11月現在)

## 2. 電波利用料の使途の基本的考え方

### CIAJの基本的考え方

- 電波は、技術・サービスの革新によって、利用用途が様々に広がり、国民生活の隅々に浸透

### 《電波利用料の使途》

- さらなる国民生活の向上のため電波を中心とする将来に向けた様々な施策の支援

電波を中心とする  
情報通信産業の健全な発展による  
豊かな国民生活の実現

安全・安心な  
ICT基盤の整備

IoT/BD\*/AI  
時代に向けた  
電波利用に関する  
技術開発

日本の  
国際競争力強化  
国際社会への  
貢献

※ BD:ビッグデータ

# 3. 電波利用料の使途について（1/4）

## 情報通信産業の健全な発展による豊かな国民生活の実現

### 《目的》

- 電波の利用を中心とした世界最高レベルのICT基盤の整備による国民生活の向上

### 《使途》

- 5Gを核とした世界最高レベルのICT基盤の実現
  - IoT市場の成長に向けた5Gシステム総合実証実験の加速  
(ex: 5Gならではのアプリケーションの特定と評価・シミュレーション等の設備構築)  
(ex: コア技術検証のためのオープンな実証試験システムの構築)
- 無料公衆無線LANサービスの整備
  - 事業者・自治体等の連携運用の支援  
(ex: シングル・サイン・オンやサービス無料化のための機器敷設、運用支援)

# 3. 電波利用料の使途について(2/4)

## 1. 安全・安心なICT基盤の整備

### 《目的》

- 国民生活の安全・安心を守るICT基盤の整備
- IoTの進展による膨大かつ多様な無線端末の登場による混信や通信妨害の防御
- 国民が平等に高度な情報通信サービスが利用できること
- 電波を深く意識することなく使用する一般ユーザーの増加に対する電波利用のリテラシーの向上

### 《使途》

- **防災・減災に向けた公共ネットワークの高度化**  
(ex: PS-LTE※による公共インフラの構築に向けた技術検証と推進・支援の強化)
- **電波利用環境の監視強化** ※ PS-LTE: Public Safety-Long Term Evolution  
(ex: 電波監視システムの最新化や増強、新たな電波の使われ方に関するガイドラインの整備)
- **条件不利地域に対する自治体や通信事業者への整備支援**  
(ex: モバイルブロードバンドの整備、地域毎の計画に対する整備実績・進捗を国民が見える形で情報公開)
- **IoTにおける電波の適正利用の知見向上のための人材育成**  
(ex: リテラシー向上に向けた周知啓発事業等の推進)

# 3. 電波利用料の用途について (3/4)

## 2. IoT/BD/AI時代に向けた電波利用に関する技術開発

### 《目的》

- IoT/BD/AI時代に即し、無線ネットワークを利用する膨大な数のIoT端末に対する、電波の有効活用及びセキュリティ技術の開発強化

### 《用途》

- 電波の周波数の利用効率化や周波数共用化に向けた新技術の研究開発と実用化

(ex: 電波伝搬、フィルタ、変復調、インテリジェントなネットワーク制御等の分野における研究開発と実用化)

(ex: 各種電波利用システムの無線設備や測定装置を整備したオープンなテストベッド環境の構築)

- ユーザーが安心してサービスを利用することができるセキュリティ技術開発

(ex: 無線ネットワークを含めトータル・システムを前提としたサイバー攻撃防御やセキュリティ技術の研究開発と早期実用化)

# 3. 電波利用料の使途について (4/4)

## 3. 日本の国際競争力強化と国際社会への貢献

### 《目的》

- 産業育成の視点からのグローバル標準化活動の強化
- 海外から期待される社会インフラ分野のグローバル展開

### 《使途》

- 5G等のグローバル展開における標準化活動の強化
  - 標準化活動に従事する人材の育成と活動支援  
(ex: 国のリードによるグローバル標準化人材の支援制度の強化)
- 防災・減災関連のICT基盤のグローバル展開支援  
(ex: 公共施設の安全を守るインフラ・システムのグローバル展開、相手国に応じたFS※の実施)

※ Feasibility Study

## 4. その他の主な意見

### 《検討課題》

- **新たな無線システム等の導入・普及に向けた制度上の課題を解決するための方策**

### 《意見》

- **グローバルな方式に合わせた、高周波利用設備の型式指定表示の条件緩和**

(ex: 型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備等への電磁的な型式指定表示と転記)

